

ねん がつ にち
2022年12月11日
たいこうせつだい しゅじつ
待降節第3主日

きくち いさおだい しきょう
菊地 功大司教 メッセージ

たいこうせつ こうはん はい しゅ こうたん ま のぞ よろこ しょうてん あ とく だいさんしゅじつ
待降節は後半に入り、主の降誕を待ち望む喜びに焦点が当てられます。特に第三主日
よろこ しゅじつ よ にゆうさいしゅう
は喜びの主日とも呼ばれ、ミサの入祭唱には、フィリピ書4章から、「主にあつてい
よろこ かさ い よろこ しゅ ちか しる
つも喜べ。重ねて言う、喜べ。主は近づいておられる」と記されています。典礼では
いろ さいふく つか こうたんさい まぢか ひか しゅ あゆ よろこ
バラ色の祭服が使われることもあります。降誕祭を間近に控えて、主とともに歩む喜び
こころ きざ しゅじつ
を心に刻む主日です。

せんしゅう つづ ふくいん せんれいしゃ はなし しる せんしゅう
先週に続いて、マタイ福音は洗礼者ヨハネについての話を記しています。先週はヨハ
こ すく ぬし じぶん すく ぬし かんけい かつ
ネが、来られるであろう救い主について、また自分と救い主との関係について語ってい
きょう ふくいん じぶん しめ えいこう すく わざ
ましたが、今日の福音では、イエスがご自分が示される栄光と救いの業におけるヨハネ
やくわり かつ
の役割について語っています。

よげんしゃ ひとびと つた じしん わざ
ヨハネが預言者として人々に伝えたことは、イエスご自身の業によってあかしされまし
た。イエスはそのことを、「見聞きしていることをヨハネに伝えなさい」とヨハネの弟子
しじ せんれいしゃ ほ やくわり だい かくにん
に指示することで、洗礼者ヨハネが果たした役割の偉大さをあらためて確認します。

きょうかい せんれいしゃ なら げんたい せかい なか よげんしゃ やくわり は つづ
教会は洗礼者ヨハネに倣い、現代世界の中で預言者としての役割を果たし続けています。
きょうかい かつ よげん ことば ぐたいぎ きょうかいきょうどうたい わざ つう
教会が語るこの預言の言葉は、具体的に教会共同体の業を通じてあかしされます。
きょうかい しゃかい げんじつ ふくいん よろこ せんざい
教会は社会の現実のなかにあつて、イエスの福音の喜びをあかしする存在でありたい
おも さまざま こんなん ちよくめん ひと あゆ きょうかい おも かみ
と思います。様々な困難に直面する人たちとともに歩む教会でありたいと思います。神
あた とうと れいがい たいせつ せんげん まも しゃかい う だ
が与えられたこの尊いのが、例外なく大切にされ、その尊厳が守られる社会を生み出
げんどうりよく おも
す原動力でありたいと思います。

わたしたちは、主イエスの福音を具体的に生きるとき、喜びに満たされます。イエスと
こじんてきで あ こころ よろこ よろこ おお ひと とく さまざま
の個人的出会いが心に喜びをもたらすこと、そしてその喜びを多くの人、特に様々な
こんなん かつ ひと わ あ よろこ きょうこう
困難を抱えている人と分かち合うことがさらなる喜びをもたらすこと。教皇フランシ
スコは「福音の喜び」においてそのことを繰り返し指摘されました。

かな いか よろこ ふくいん つ つづ
悲しみや怒りではなく、喜びのうちに福音を告げしらせるものであり続けましょう。